定時制課程

令和６年度　学校評価（分掌等）

1　分掌
総務・教務・生徒指導・進路指導・保健・特別活動・研修

2　委員会
教育課程検討・キャリア教育推進・校内ＬＡＮ運用管理
修学旅行検討・支援

3　学年部
１年・２年・３年・４年

4　教科
国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・英語
家庭・情報・商業・地域環境

本年度の目標達成度　評価基準

A　達成

B　ほぼ達成

C　やや不十分

D　不十分

本荘高等学校定時制課程

1　分掌

令和６年度

総務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　全体的な視野で各分掌間の連絡調整を図る。 2　ＰＴＡ・教育振興会・関係諸機関との連携を密にし、教育環境の整備充実と活性化に努める。 ＜手立て＞ 1　分掌間の連携を密にし、校務運営の活性化を進める。 2　危機管理マニュアルの追加項目の確認・見直しを継続する。 3　職員が協力して広報活動を行う体制をつくる。		P
実施状況・達成状況	1　学校行事等の準備、運営に事前の声がけ、連携を図った。 2　学校災害対応マニュアルの熊等危険動物被害防止の項目については全日制課程にさきがけて作成した。 3　特別活動部や進路指導部が主導して、各行事の担当者が学校ＷＥＢページの更新を行った。		D
成果と課題	1　職員会議資料準備や防災訓練、入学のしおり作成、新入生オリエンテーション準備等担当職員で分担した。 2　熊等危険動物への対応や不審者への対応等随時の変更や追加が求められる。 3　各行事終了後、すぐにＷＥＢページを更新しており、更新の頻度が多くなった。保護者や外部でどれほど閲覧されているか、また評価はどうかの調査が必要である。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・防災訓練については年２回実施したが、全日制課程との合同防災訓練は定時制課程が１学期中間考査期間のため今年度も実施することができなかった。今後も全日制課程総務部と連絡を密にとり、合同行事を運営したい。		A

令和６年度

教務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　校務支援システムの安定した運用を行う。 2　学習進度計画表の新様式を定着させる。 3　成績処理や入試業務をミスなく円滑に遂行する。 ＜手立て＞ 1　校内ＬＡＮ運用管理委員会や全日制課程と連携し、操作手順についてのマニュアルを完成させる。 2　新学習指導要領の学習および評価方法について周知や理解を進める。 3　確認作業をこまめにしたり、実施要領の作成を早い時期から行う。		P
実施状況・達成状況	1　出欠をまとめ入力から日々入力に変更したが、教務主任が担当しており、他の職員が運用できていない。指導要録は概ね運用できているが、評定などを手入力している状態である。 2　学習進度計画表の新様式については、年度当初、多少の混乱はあったものの概ね定着している。 3　成績処理については、出席簿や出欠統計等、教務部が関わらず担任と副担任のみ担当している部分で多少、ミスがあった。		D
成果と課題	1　全日制課程等と連携をしたものの、旧課程の４年生が在籍していることもあり、まだ、完全には新しい校務支援システムに移行できない状態である。 2　新しい様式になり、指導内容と評価基準が分かれたことで、学習評価に対する意識が高まっているように感じる。 3　ミスの発生場所や原因が分かり、新しい校務支援システムを導入する上で参考になっている。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・次年度からは本格的に校務支援システムを運用し、安定させたい。通知票についてもデータで送付できるようにしたい。 ・引き続き、新様式の学習進度計画表を定着させ、学習評価に対する意識や共通理解を高めたい。 ・成績処理については、校務支援システムで運用し、これまでのものをバックアップとして活用したい。来年度から始まる高校入試のＷＥＢ出願に対応できるよう関係する部署との連携を図りたい。		A

令和６年度

生徒指導部

本荘高等学校定時制課程

今年重点目標	1　「定時の心得」の検討・整備を図る。 2　安心安全な学校生活が送れるように生徒の自主性・自律性を伸ばす。 ＜手立て＞ 1　各方面からの情報収集及び生徒会、職員からの意見を集約し生徒指導部内規をもとに検討し、完成を目指したい。 2　非行、事故の未然防止と問題行動発生時の適切な対応。職員打合せでの学年からの連絡、学校生活調査の情報共有を徹底していきたい。		P
実施状況・達成状況	1　「定時の心得」「定時制ガイダンス資料」「長期休業中の心得」等の内容について、確認しながら活用できた１年であったが、内容だけでなく手続きや運用面等における不具合があり、見直しを行った。 2　生徒に関する情報交換や、長期休業中における注意などを行い、生徒事故の防止に努めたが、徹底できない点もあり、反省点である。		D
成果と課題	1　諸届けの修正などは行ったが、「定時の心得」改訂作業には取り掛かれていない。 アルバイトや自動車学校入校届の回覧用紙の変更等、不具合を確認した時点で、修正して対応した。指導する際に全職員が情報を共有して指導した。また必要に応じて改善しなければならない点については、会議等を経て指導に反映していく。 2　停学を伴う生徒事故は年間を通して発生しなかったが、個別にみれば整容面や、生活面での問題が見られた。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・生徒事故は発生していないものの、いつ起こるか予測できない。そのため、日頃から防止のための指導を繰り返し行うとともに、校内規定等を確認し、生徒の自覚を育て、防止の手立てとしていく。 ・交通関係では、自転車利用者に対するヘルメット着用の努力義務について、警察等と情報を交換しながら生徒の理解を進めていく。 ・「定時の心得」改訂作業については、生徒へのアンケートや、生徒会役員の意見集約等を行い、採用可能な内容については、指導部、全職員で検討する。		A

令和６年度

進路指導部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　卒業予定者全員の進路を決定する。 ２　就職・進学の提出書類をミスなく作成する。 ３　学年部・支援委員会と連携する。 ＜手立て＞ １　朝礼や職員会議で情報の共有を図り、全員で進路指導にあたる。 ２「調査書・推薦書等作成要領」を全職員に配付し、進路指導部と３・４年部との合同会議を開くことで、記入方法を統一してチェック体制を強化する。 ３　卒業予定者以外の生徒も含め、外部機関の支援が必要な場合は、学年部や支援委員会と連携して早めに動く。		P
実施状況・達成状況	１　12月末現在、進学の達成率は100%、就職は87.5%（県内100%、県外50%）である。 ２　進路指導部と３・４年部との合同会議を実施し、「調査書・推薦書等作成要領」を配付した。提出書類は学年部及び進路指導部で複数回のチェックを行い、ミスなく作成・送付できた。 ３　各学年に１名ずつ進路指導部員がいるおかげで、学年進路行事はスムーズに実施できた。支援委員会とは必要なときに情報共有や事例検討を行った。		D
成果と課題	１　１回目の就職試験で不合格の生徒が多かったが、諦めずに最後まで努力できるよう励ましながら全職員で指導した。 ２　調査書作成については、「賢者」の操作方法が複雑なため、教務部との連携が必須である。 ３　４月の進路希望調査のあと、教育相談週間や保護者面談の記録を続けて入力して、進路に関する情報が共有できるようにしたい。支援委員会や学年部と連携して、方法を検討する。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・今年度同様、６月に拡大進路部会（３・４年部と合同）を開き、情報共有を図る。 ・「調査書・推薦書等作成要領」は必要があれば修正し、全職員に配付する。 ・卒業生講話は、来年度の講師候補の予定を優先して日程を組む。 ・各学年の面談内容（進路に関わること）の記録方法を検討する。		A

令和６年度

保健部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　望ましい食習慣の形成を促す。 ２　精密検査の受診率を上げる。 ３　人とのかかわりの中で自己肯定感と道徳性を育む。 ＜手立て＞ １　ライフスタイル調査で食に関する実態を把握し、保健教育（保健講話を含む）に生かす。 ２　分かりやすい受診勧告文書を作成し、全校集会等を利用し啓発する。 ３　他分掌と連携し、行事等の中で人と関わる場を意図的に設定し、生徒の変容や支援の方法について評価する。		P
実施状況・達成状況	１　ライフスタイル調査の結果を分析し、学校保健委員会で共有した。また、保健便りや保健講話で、食に関連した題材を取り上げた。 ２　受診勧告書が保護者に確実に届くよう、返却封筒に保護者サイン欄を設けた。未受診者には、保護者面談で再度配付してもらった。 ３　縦割り活動で、関わり方のロールプレイの演示を提案した。また、コグトレでソーシャルスキルに関する問題を取り上げた。		D
成果と課題	１　保健講話の振り返りから、食へ関心をもつ機会になったことは分かった。さらに、健康の維持と結びついた思考力・行動力が身につく様な学習ができるとよい。 ２　要受診３７項目に対して、受診済みが９、受診率は２４．３%だった。昨年度より増えたが、まだ改善の余地がある。 ３　生徒の振り返りから自己評価は確認できたが、他者評価や支援方法の評価に関しては不足していた。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	１　「なべっこ」を特別活動部と保健部の共催にし、生徒がメニューの考案から取り組む等、食に関する実践力を養う機会にしてはどうか。 ２　保健講話（外部講師によるがん教室に申込み予定）を活用し、精密検査の重要性や、がん治療における虫歯の影響について学ぶ機会を設定する。		A

令和６年度

特別活動部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　集団活動を行う上で必要なコミュニケーション能力の向上と、活用する能力の育成を目指す。 ２　集団活動で生じた課題の解決に向けて話し合い、合意形成を図る能力の育成を目指す。 ３　主体的に集団活動に参加する能力の育成を目指す。 ＜手立て＞ １　縦割り活動や学校行事において、生徒が考えを言葉で表したり、議論したりする時間を積極的に設ける。 ２　縦割り活動や学校行事などの異学年交流において、生徒に役割を与えることで様々な立場から集団に貢献できるようにする。 ３　キャリア・パスポートを有効活用することで、生徒に自身の課題や改善した点を認識させ、今後の活動に見通しを持たせる。		P
実施状況・達成状況	１　縦割り活動や学校行事において、職員間の入念な打ち合わせのもと、話し合い活動を取り入れることで、生徒のコミュニケーション能力の向上に資する議論を行うことができた。 ２　縦割り活動、学校行事共に、各グループのリーダー的役割は生徒に与えられたが、それ以外の役割を与えられる活動は限られていた。 ３　キャリア・パスポートについて、記入漏れのないように呼びかけ、生徒が自身の活動の見通しを持ったり、振り返りができるようにした。		D
成果と課題	１　縦割り活動では年度始めに、育成する能力等を全職員で共有したことで、各回の担当職員が変わっても統一感を持って実施できた。学校行事では、生徒と外部の関わりが増えたことで、生徒間の協力が必須になり、それに伴いコミュニケーション能力も向上した。 ２　岩城遠足、なべっこ以外の行事でも、生徒の多様な役割を設け、自己有用感を高めていくことが必要である。 ３　キャリア・パスポートは各クラスで有効活用できていた。一方で、その内容の学年を超えた理解は不足しており、全体に向けた周知方法が課題と言える。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・今年度同様、縦割り活動や学校行事の内容については、全体で共有できるようにする。 ・各活動において、教員が行うべき行程と生徒が行える活動を精査し、多くの生徒が有意義な役割を担えるようにする。 ・キャリア・パスポートの生徒が記入した内容を、項目ごとに整理し、傾向等を分析し、次の学校行事や次年度に反映できるようにする。 ・各活動の計画の段階から支援委員会と連携し、生徒の実態に応じた活動を実施する。 ・縦割り活動の予算を増額する。		A

令和６年度

研修部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　研修の場を通して教員としての資質を高める。 ２　授業に関する情報の収集や発信を通して、改善に生かす。 ＜手立て＞ １　年２回の授業参観週間や校内授業研究会を実施する。 他の分掌や、校内ＬＡＮ運用管理委員会との連携を密にする。 ２　授業アンケートの内容を検討する。 ＩＣＴ機器の利活用に関する情報を発信する。		P
実施状況・達成状況	１　他分掌が予定している行事を確認し時期を検討した結果、参観できる時間と教科・科目の数を確保するため、開催期間を延長し「授業参観旬間」として４～５月と１１月の２回実施した。 各回、各教員が概ね２時間程度の授業を参観した。 ２　授業改善重点事項に沿った質問を加え、アンケートを７月と１２月の２回実施した。２回目では各担当者の授業時間内で回答させ、回答がそろい次第授業単位で集計し、担当者が結果を確認できるようにした。特別な機会を設けての情報発信はなかったが、職員間でのＩＣＴ機器の利活用に関する日常的な情報共有は行われている。		D
成果と課題	１　授業参観、授業アンケートとも、担当者への結果のフィードバックを早めることで、授業改善の効率を高めつつある。 ２　授業改善重点事項に沿った質問を加えることで、重点事項の自身の達成状況を、各自で確認しやすくできた。 現状でＩＣＴ機器の利活用は十分に行われ、また授業参観等を通じ、教員間での情報共有も図られていると考える。今後、業務がより一層電子化されていく過程で生じる新たな課題に対しては、他分掌との連携のもと、その都度対応することになる。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・他教科の授業を参観する機会は、同一教科の教員がほぼ１人の本校において特に大きな意味を持つ。授業改善に生かす上でも、参観の感想やアンケートの回答等の集計結果を素早く提供する効果は大きく、次年度以降も推し進めて行くべきと考える。 ・次年度以降、定時制課程においても校務支援システムなどＩＣＴを取り入れた業務の比重が高まっていくと予想される。その際、スムーズな移行や効率的な利活用を目指して、他の分掌や校内ＬＡＮ運用管理委員会とより一層の連携を図り、実演・演習を取り入れた研修会を企画するなど、業務内容や操作方法の周知・習熟に努めることが望まれる。		A

2　委員会

令和６年度

教育課程検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　新教育課程における指導内容を深める。 2　旧教育課程から新教育課程への移行を円滑に進める。 ＜手立て＞ 1　学校設定教科・科目について、指導内容の検討を続け、次年度の学習計画を作成する。 2　来年度の新教育課程の完全実施に向け、教育課程表の見直しや確認を慎重に行う。		P
実施状況・達成状況	1　外国語の「英語会話」を「論理・表現Ⅰ」に変更し、体育の「スポーツⅡ」を保健体育の「体育」に併せる、という見直しを行った。 2　旧課程から新課程に変わる４年次の教育課程について慎重に確認した。		D
成果と課題	1　生徒の実態を踏まえた見直し、変更ができたと考える。外国語については２年次、体育については４年次に関する変更のため、検証については数年先になる。 2　４年次の教育課程について、旧課程と新課程をあわせて、改めて細かく確認することができた。 旧課程の科目が抜けた分、来年度以降の教育課程表がシンプルになった。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・来年度から新教育課程が全学年で完全実施になるので、新しくなる４年次の教育課程を中心に指導内容を深めたい。 ・引き続き、生徒の実態等を踏まえて教育課程の検討を重ねたい。特に、学校設定科目については丁寧な検証を心がけたい。		A

令和６年度

校内ＬＡＮ運用管理委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１ 校内ＬＡＮの安定した運用を行う。 ２ 各分掌と連携し、教員ポータルや「賢者」の利活用を進める。 ３ 図書コーナーの利用の促進と管理を行う。 ＜手立て＞ １ 接続状況を定期的に確認し、全日制の担当者と連携して運用する。 ２ 教務部や研修部と連携し、ソフトウェアの利活用情報や、ソフトウェア更新に関わる情報収集（機能改善に関わる連絡含む）や紹介を行う。 ３ 新規購入図書の紹介を行うなど、図書利用の呼びかけを行う。		P
実施状況・達成状況	１ 年度初めのネットワークの接続不良、電子黒板のＮＨＫ For SCHOOLの再生不良、旧ＮＡＳのトラブル等、年間を通して、トラブルが発生している。代替手段によって利用できているものの完全に復旧できていないものもある。 ２ 「賢者」や「すぐーる」等の利用方法については、まだまだ、情報不足のうえ、構造等について理解不足な点もあり、対応に苦心した。 ３ 図書の利活用については、不十分であった。		D
成果と課題	１ 情報システムについては、すべてが正常に稼働しているわけではないが、使用に支障が無いように管理や保守が行われた。この点では評価できるが、不具合については、システムの交換も含めて事務部と相談しながら進めていくことになる。 ２ 図書の活用については、読書週間等のイベントなどを企画し、図書への興味関心、読書の面白さなどに気づかせる。	評価 C (A～Dで)	C
次年度への提言	・次年度から「すぐーる」の本格稼働に向けて、連絡システムの活用については、何とか目処が立った。また、問題は解決していない所はあるものの、支障の無いように稼働している点は評価できる。一方で未解決のシステムについてどのように対応して解決していくか、また新たに利用を開始するシステムについて、セキュリティを含めた利用技術の確認が必要になる。		A

令和６年度

修学旅行検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１ 本校における修学旅行の在り方について検討する。 ２ 次年度の修学旅行について、早期の計画立案を目指す。 ＜手立て＞ １ 今年度実施の修学旅行（東京方面）や昨年度の修学旅行（関西方面）等の成果を確かめ、次年度以降の検討に生かす。 ２ 生徒・保護者にアンケートを実施した上で、行き先や活動などを検討し、修学旅行の具体的な行程を作成する。		P
実施状況・達成状況	１ 今年度実施の修学旅行については、計画通りに実施することができ、概ね満足のいく内容となった。 ２ 来年度の修学旅行については、生徒や保護者へのアンケートを行い、業者の選定も済み、詳細をつめている段階である。		D
成果と課題	１ 普段の生徒の様子とは違った面が見られ、有意義な旅行となった。 ２ 大手の旅行代理店で見積もりを取れたことは良かった。旅行代金が年々上がってきているので、旅行先や積立については細かい見直しが必要であると思う。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・修学旅行のあり方については、生徒数や旅行代金の値上がり等を考えると、実施の有無も含め、旅行先や内容等、引き続き検討が必要である。		A

令和６年度

支援委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　生徒の自己理解を促す活動を充実させる。 ２　生徒理解・相談活動に関する研修を行う。 ３　外部機関と連携して、組織としての支援を充実させる。 ＜手立て＞ １　教員との面談や、ソーシャルスキルトレーニング等、支援が必要な生徒への個別の支援を継続して行うことで、生徒が得意なこと、苦手なこと等を自覚し、自己理解を深めるとともに自己肯定感を高める。 ２　教育専門監等と事例検討会を実施し、生徒支援につなげる。 ３　高等学校特別支援チーム、外部関係機関と連携し、効果的な支援を行う。		P
実施状況・達成状況	１　ソーシャルスキルの自己チェック（全校）とエゴグラムの解説（１年生対象にＳＣより）を行った。また、縦割り活動では他者との協力や主体性について、コグニティブトレーニングでは得意不得意について振り返る時間を設けた。就職試験に向けた面接練習で、自己理解を深めた生徒もいた。 ２　高等学校特別支援チームに縦割り活動を参観していただき、ソーシャルスキルに関する支援方法について助言をいただいた。また、ＳＣに支援委員会へ出席していただき、各学年の事例検討を行った。 ３　高等学校特別支援チーム、ＳＳＷ、自治体の「こども家庭センター」等と連携し、支援方法について検討した。		D
成果と課題	１　人との関わりを通じて、生徒が自己理解を深める機会を設定することはできた。自己肯定感については、客観的な評価をしていないため、好ましい変容については、積極的に情報交換し手立てを共有できるとよい。 ２　高等学校支援チームやＳＣとの事例検討会は、職員研修の機会にもなるため継続していきたい。その中で、個別の支援計画の作成について検討する機会がもてるとよい。 ３　不登校等で直接的に生徒の支援ができない状況でも、保護者や関係機関とつながり、組織的な支援を継続できるとよい。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	１　新入生、転・編入生を対象に、「学習・生活に関するアンケート」を行い、実態を把握する。必要に応じて個別の支援計画または指導計画を作成し、授業のユニバーサルデザインに取り組む。 ２　ソーシャルスキルトレーニングは、友好的な人間関係の中で、楽しみながら実施することが効果的であるため、生徒が興味をもつ内容や得意な分野を積極的に縦割り活動に取り入れ、生徒の変容を共有する。 ３　不登校生徒への継続的な支援ができるよう、個々のケースについて定期的にＳＣへ相談する。		A

令和６年度

いじめ防止委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　すべての職員がいじめ問題の重要性を認識する。 ２　定期的にいじめ防止に向けた取組を実施する。 ３　生徒の様子に係る情報を共有するとともに、組織としての支援を充実させる。 ＜手立て＞ １　校内研修や具体的な事例紹介等を通して、いじめに関する共通理解を深め、対応力を高める。 ２　いじめアンケートを年３回実施して状況を把握するとともに、各分掌や外部機関との連携により、効果的な取組を検討、実施する。 ３　教育相談やカウンセリング等あらゆる機会を捉えて情報収集に努めるとともに、報告、連絡、相談により組織として対応する。		P
実施状況・達成状況	１　教育相談週間や保護者面談、アンケート調査、学校生活調査、生徒に係る情報交換等様々な手立てにより、生徒の情報収集や兆候の把握に努めるとともに、いじめ問題の重要性を職員間で共通理解ができた。 ２　秋田県教育委員会による「いじめに関するアンケート調査」や生徒指導部が実施した年２回の学校生活調査によると、いじめ事案やその兆候等は見られなかった。また、生徒指導だよりや集会等での情報発信により、いじめ防止につなげることができた。 ３　人間関係形成能力が高くない生徒が多く、日常の授業だけでなく縦割り活動やコグトレでのロールプレイを通して学ぶことができた。		D
成果と課題	１，２　いじめ案件はなかったものの、生徒主体の活動や働きかけの機会を設けるのが難しいことが課題である。 ３　ソーシャルスキルを育成する活動には一定の成果が見られるが、組織的・計画的にスキルを身に付けるプログラムを考えることが課題である。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	１，２　いじめ発生時に組織的な対応ができるような指導体制を維持すること。 ３　ソーシャルスキルトレーニングを通した人間関係形成能力の向上。学校として組織的な取組を継続していくこと。		A

3　学年

令和６年度

１年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　基本的生活習慣の確立を図り、自律した学校生活を送らせる。 ２　集団の中で協働するための豊かな人間性と適応力を身に付けさせる。 ３　努力する姿勢と生きる力を身に付けさせ、働学一体の実現を目指す。 ＜手立て＞ １　「定時の心得」やクラスでのきまりを日常的に意識、遵守させる。 個人面談や保護者面談を行い、家庭との連絡を密にする。 ２　日常の学校生活や、ＬＨＲ、総合的な探究の時間、学校行事の活動を通し、ものごとに協力して取り組む意識とクラスの一体感を高める。 ３　キャリアパスポートを用いて諸活動や将来を見通させる。 アルバイトや資格取得などを奨励する。		P
実施状況・達成状況	１　教育相談週間での生徒面談（２回)、保護者面談週間（２回）の他、健康観察や声かけ等の日常的な生徒の把握、欠席時の保護者への連絡に勉めた。 ２　学習課題の解決やＳＳＴ、行事の計画などの場面において、生徒達自らよく相談し協力するなど、集団として、またその一員として積極的に取り組んだ。 ３　事前指導とキャリアパスポートへの記入により、見通しをもって学校行事やクラスの活動に取り組んだ。 アルバイトへの希望や興味を有する生徒はいるが、体調や通学手段の制約により、継続中の１名を除いて就労は進んでいない。		D
成果と課題	１　本人の心身の状況や家族の送迎手段の制約等から欠席を繰り返す生徒や、学校での学習に目的を見いだせなくなり長期欠席や休学に至った生徒がいた。お知らせの文書が家庭に届いていないことがあった。 ２　互いにコミュニケーションが取れ、集団として良くまとまっており、協力したり話し合ったりする姿勢が随所に見られる。学習や学校・学級の活動に積極的に取り組んでいた。 ３　多くの生徒に自身の特長や将来を意識させることができた。総探・ＬＨＲの時間を利用してキャリアパスポートへ記入させたため、個々の行事との間隔があいてしまうことがあった。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・生徒たちのより自律的な態度を育成し、社会への適応を促したい。体調の管理や通学等については、家庭とより一層の連携を深め協力を得ていきたい。また、生徒本人と保護者との間で、意思や情報の伝達・共有がなされているか、気を配る必要がある。 ・学力の面で不安を抱える生徒たちだが、互いに助け合う姿勢を学習面でも生かせるものと考える。 ・学校生活や卒業後の将来を見据えて、今何が必要か、できるかを考え、実行する意識を醸成させたい。		A

令和６年度

２年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　基本的生活習慣の確立を図り、自律した学校生活を送らせる。 ２　集団の中で豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。 ３　働学一体の実現に向け、努力する姿勢と公民的資質を身に付けさせる。 ＜手立て＞ １　「定時の心得」やクラスのルールを徹底するとともに、面談や電話連絡などにより、生徒保護者との連絡を密にする。 ２　授業や体験的活動を通してクラスの団結力を高める。 ３　キャリアパスポートや進路情報を用いて将来の見通しをもたせ、アルバイトや資格取得等を奨励する。		P
実施状況・達成状況	１　それぞれの生徒が個々に課題を抱えており、その中で共通する内容が体調面における自己管理であるが、心身的な成長の過程にある生徒が多く、特に体力的な面で、疲れや体調不良を訴えることが多い。 ２　集団生活については、体験活動や行事等で取り組む状況は良好であり、生徒自身も経験力を身につけることができている。 ３　将来に関して、なんとなくではあるが見通しを持ち始めているように感じることが多くなってきた。		D
成果と課題	・この２年間は生徒にとってとてもたくさんの経験を積むことができた期間であった。特にこの１年間は下級生と上級生の間で、経験をもとにアドバイスしたり質問したりと、集団の中での自己の存在を高める行動ができた。 ・この集団で育てた自信を、外の団体等に対して活かせるようになることが次の課題である。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・進路、修学旅行等外部に関する行事があるため、ここで経験を生かして自信を持たせるとともに、社会性を育みたい。 ・進路を決定するにあたり、生徒自身の希望はもちろんだが、家庭内の話し合いの内容等も確認して、指導に生かす。		A

令和６年度

３年部

本荘高等学校定時制課程

重点目標	１　学級活動や学校行事を通じて、よりよい人間関係を形成する。集団の中でともに生きるための豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。 ２　３卒生には進路実現を目指させ、４卒生には具体的な進路目標を設定させる。 ＜手立て＞ １　社会性を身に付けさせ、ＬＨＲ、総合的な探究の時間、学校行事、縦割り活動を通して他者を思いやる気持ちを育てる。 ２　生徒面談や三者面談を通して、進路目標の共通理解を図る。就職セミナーやオープンキャンパスなど情報提供に努め、参加を推奨していく。		P
実施状況・達成状況	１　学校行事や縦割り活動を通しての集団の中で個人の役割を自覚させて行動させた。自分の仕事を見つけて自主的に行動できるようになった生徒が増えた。 ２　個人面談週間だけでなく始業前、放課後の短い時間でも随時個人面談を行った。６月中に三者面談を実施し、夏季休業中の進路活動にスムーズに移行することができた。冬季休業前にも保護者面談と三者面談を行った。		D
成果と課題	１　学級内での人間関係については、それぞれの性格についてお互いに理解が進んでいる。特に修学旅行後には学級内でお互いを思いやれる行動が多く見られるようになった。 一方、進路行事の際、学校を離れる行事で他校の生徒と一緒であったり、外部講師が来校したりする行事に出ることが苦手な生徒への指導が課題と感じた。 ２　随時個人面談を行うことで、進路希望の確認や人数が少ないながらも学級内の人間関係の複雑さや個人の悩みに対応していくことができた。また三者面談、保護者面談で家庭での様子を知ることができた。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・４修制の生徒が２名のみになるが、現在、２名とも明確な進路目標をもっており、保護者も協力的であることから、目標達成に向けて今後もわずかな時間でも常に個人面談をしていきたい。		A

令和６年度

４年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　進路実現に向けて自ら行動できるよう支援する。 ２　積極的に他者と関わり、自己理解を深めさせる。 ３　社会人としての心構えや生活習慣を身に付けさせる。 ＜手立て＞ １　担任・副担任との面談を充実させ意識を高めるとともに、６月までに三者面談を実施して保護者の協力を得る。 ２　ＬＨＲやキャリア教育等でコミュニケーション活動を増やす。また、学校行事や縦割り活動等ではなるべく欠席しないよう指導する。 ３　挨拶や返事だけでなく、双方向の会話の重要性を伝え習慣化する。		P
実施状況・達成状況	１　６月中に全員と三者面談を実施し、進路希望を確認した。１２月までに全員の進路が決定した。１回目が不合格でも、最後まで粘り強く努力するよう指導した。 ２　自己理解・自己表現を促すことを目標に、ＬＨＲやキャリア教育の時間等様々な場面で人と関わりコミュニケーションをとる活動を行った。学校行事や縦割り活動で、リーダーとして活躍する姿が見られた。欠席が当初多かった生徒も、後半になってやや解消された。 ３　進路活動と結びつけながら、基本的生活習慣や社会人としての心構え、言葉で伝えることの重要性について指導した。理解して実践できているかどうかは個人差があり、卒業後に不安が残る生徒もいる。		D
成果と課題	１　保護者全員と面談し、本人と保護者の意向を確認してから本格的な進路活動を進めることができた。応募日程や書類の提出など、細かいことを直接保護者に伝えることができる貴重な機会であるため、来年度も早めの三者面談をしてほしい。 ２　自己表現の場を与えると、予想以上に生き生きと話す生徒が多い。機会を与えることが重要であると考える。 ３　挨拶や返事、時間を守るなど基本的なことは身に付いていても、困っていることや予定変更などをきちんと相手に伝えることは不十分であると感じている。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	（来年度の４年部へ） ・早め（遅くとも６月まで）に三者面談を実施する。 ・夏休みの出校（進路学習）について、３年部と連携して計画を立てる。 ・欠課時数を定期的に把握し、指導する。		A

４　教科

令和６年度

国語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。 2　言語活動を充実させ、文章読解力・自己表現力を向上させる。 3　新聞ワークシートや書き写しシートを用い、様々な視点から物事を考えさせ客観的な意見をもたせる。 ＜手立て＞ 1　授業において国語辞典、漢和辞典、タブレット端末を積極的に活用させる。授業内容の振り返りで目標の定着を確認する。 2　話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力を付けキャリア教育につなげる。 3　新聞コラムや最新の時事を授業で取り扱い関心をもたせる。		P
実施状況・達成状況	1　教科書本文を初読の際は、国語辞典を活用して、語句調べをさせた上で漢字・語句プリントに取り組ませた。 2　教師からの質問への回答には論理的に理由・根拠を述べ文章で答えられるように指導した。 3　読売新聞ワークシートを活用し、新聞記事の精読を行った。タブレット端末を利用し書かれている内容について詳しく調べさせ生徒の課題研究にも活かせるようにした。		D
成果と課題	1　辞書を引いて言葉の意味を確認する際、文脈に合った意味を見つけることに時間のかかる生徒もいて、授業内容の進度に差が出てしまうことがあった。 2　やはり、単語での回答になってしまう生徒が多く、キャリア教育の面接対策のため、単語での回答であっても、その回答の理由・根拠を述べさせるようにした。 3　生徒の興味・関心の薄い新聞記事にも目を向けて、社会の流れに目を向けるように指導することができた。漢字・語句の学習においては、国語辞典やタブレット端末を活用して使える語彙を増やせるように指導した。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・今後も使える語彙を増やし、他教科の教科書の内容をしっかり読み取れるように漢字学習や基礎的な口語文法の学習を徹底していきたい。 ・また、人の話をきちんと聞き、理解した上で自分の意見を論理的に説明できる生徒の育成をしていきたい。		A

令和６年度

地歴・公民科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　地理的な位置関係や歴史的な因果関係等、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 2　基本的な学習事項を基にして自分の考えを表現することができるようにする。 3　現代の社会情勢に目を向け、物事を幅広く考える力を身に付けさせる。 ＜手立て＞ 1　ＩＣＴ機器を積極的に活用し、地理に限らず地図帳を活用させる。 2　発表や話し合い活動等、言語活動を中心とした学びの場をつくる。 3　就職・進学試験も視野に入れ、時事問題を取り上げる。		P
実施状況・達成状況	1　ＩＣＴ機器を活用し、地図帳をできるだけ活用するようにした。 2　発表や話し合い活動の場面を設定するように心がけた。 3　新聞やテレビ、インターネットなどの情報を基に時事問題を取り上げた。		D
成果と課題	1　求める水準に至っていないケースも少なからずあるが、地理的な位置関係や歴史的な因果関係が把握できるようになってきている。 2　自分の言葉で表現する機会を多く設定しているためか、内容に深まりを感じる生徒も見られるようになってきた。 3　就職試験で実際に出題されたこともあるなど、生徒も教師も満足感や達成感を得ることができた。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・自分の言葉で表現することに慣れ、抵抗がなくなってきているので、内容の深まりが出るように、引き続き、基礎的な学習事項を大切にしたい。 ・ＩＣＴについては、新しい活用方法が次々に出されているので、少しずつでも新たな試みに挑戦したい。		A

令和６年度

数学科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　数学的な思考力を培う。 2　基礎的な計算力の定着を図る。 3　授業において望ましい学習態度を育む。 ＜手立て＞ 1　文章題等から複数の情報を読み取り整理し、問題解決に導く力を身につけさせる。日常生活から題材を取って数学的思考の重要性を実感させる。 2　小学校以降の基礎的な計算問題を日々の課題や長期休業中の課題として与え指導する。 3　生徒が集中できる、学習に望ましい授業作りに努める。		P
実施状況・達成状況	1　割合や速度等の文章題を授業で扱い、複数の情報を読み取り、整理する問題を出題した。また、教科書を用いた授業でも日常生活と関連づけた解説を意識して進行した。 2　長期休業中に小学校以降の基礎的な計算問題の課題を出した。 3　本時の目標や授業の流れを明確に示し、内容に集中できるようにした。		D
成果と課題	1　数学Ⅰ，Aでは基礎的な内容に追われてしまうことが多く、逆に学校設定の科目では基礎力が固まる前に応用的な問題を扱ってしまった。 2　小数や分数の計算を出題し、概ね出来ていたが、速さや正確さの向上のために授業のはじめに時間を設けるなど継続して行いたい。 3　全体的に見て授業や演習に集中していた。学力の差が大きいクラスでは基礎的な問題にも取り組まない生徒や難しい問題も簡単に解ける生徒がおり、問題の難易度について改善が必要である。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・基礎問題や計算練習は繰り返し取り組ませて定着するように指導を行う。 ・差の大小はあるが、どのクラスも学力の個人差があるため、早く問題を解き終わった生徒のために難易度の高い問題を用意しておく。 ・基礎的な問題に対して、1人で解けない、取り組まない生徒もグループワーク等では別の生徒に聞くなどしている姿が見られたので、適宜取り入れる。		A

令和６年度

理科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　身のまわりの事象への興味・関心と、科学への見識を深めさせる。 2　物事を科学的にとらえ理解する姿勢を身に付けさせる。 3　自らの考えを、まとめ、表現する習慣を付けさせる。 ＜手立て＞ 1　日常的な事象と、観察や実験、演示を結びつける。 小テスト等を通し、基本的な知識や技能の定着を図る。 2　考えを整理しまとめる時間や生徒間での意見交換の場を設け、他者との考えの比較を通して、学びを深めさせる。 3　ペアワーク、グループワークを通し表現する機会を多く与える。 Chromebookを活用し、情報収集、レポート作成等を行う。		P
実施状況・達成状況	1　導入に身の回りの事象や話題を提示し、知識や思考の共有を図った。「科学と人間生活」や「化学基礎」において事象の演示を、「地学基礎」において観察を実施できたが、生徒が主体の実験は行えなかった。 2　自発的に発言したり、積極的に協議する学年がある一方で、授業中、問いに対して、思考を促し発言を引き出せない学年もあった。 3　ペアやグループによる作業や討議、意見集約による発表の機会を設けた。また、一部の科目で数回ずつChromebookを活用しての調べ学習を行った。		D
成果と課題	1　導入部分で提示した話題や演示を学習内容に関連づけられない者もいたが、身の回りの事象を示すことで、学習課題や目標を意識させられた。 2　学びを一律に深めさせるまでには至っていないが、指導者からの問いかけに対して反応が乏しく理解度が測りにくい集団でも、生徒間での意見交換や作業では主体的に活動する場面が見られた。 3　ひとりで考えをまとめられない生徒でも、ペアやグループによって思考するきっかけとなった。操作面での大差はないが、情報の収集や整理等、ＩＣＴ機器の活用に技量差が見られる。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・理数系科目に対して苦手意識をもつ者は多くいるが、学習意欲や課題意識を前向きに捉える様子は十分に見られる。引き続き、身近な事象から生徒の興味・関心・実態に応じて精選し、話題を提供する。 ・ペア・グループによる活動が効果的な場面を選んで、意見をまとめたり発表する場を増やす。 ・生物や地学の領域の全般、また、物理と化学の領域のうち日常生活に関わる部分等の具体的な事象を扱う教材においては、目的を明確にしてＩＣＴを利用した情報収集の機会を増やしていく。		A

令和６年度

保健体育科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　授業を通じて挨拶の励行や服装等の基本的生活習慣を確立できる能力を育む。 2　安全に留意し生涯にわたり運動に親しむ態度を育む。 3　実生活（働学一体）における心身の健康を保持増進する態度を育む。 ＜手立て＞ 1　授業開始時・終了時に整列と挨拶を徹底し服装等をチェックする。 2　運動道具の置く場所を考え、整理するとともに、技能の向上のための個別指導を通じて上達する喜びを知り、楽しく運動できる手助けをする。 3　健康課題を提示し、情報を収集し行動選択できる活動を取り入れる。		P
実施状況・達成状況	1　挨拶・服装のチェックは、授業開始時に毎回行い概ね良好である。 2　器具のセットや片付けの際に注意するように呼びかけている。 毎時間準備運動を行い怪我予防に努めた。 3　思ったより運動能力が低い生徒が多い。個別指導を行ったがその時は注意を聞いて実施しようとするが、出来ないとすぐに諦めてしまい自己流に戻ってしまう生徒が数名いた。しかし、指導により技術が向上した生徒も多くいた。運動道具の置く場所は、安全に留意して行い良好であった。		D
成果と課題	1　挨拶と服装については、成果があったように思う。 2　バドミントンやバレーボールの初めての授業時に器具のセットの仕方を指導した。セットする際の危険な行動や安全面での指導も行い怪我等もなかった。技能が苦手な生徒も積極的にボールに触る指導を実践できた。その結果、正確に相手コートへボールを返せる場面が増えてきた。しかし、三段攻撃が出来ずにいた。来年度は、三段攻撃が出来るように指導していきたい。 3　タブレットを用いて情報を収集させたが、生活に取り入れ実践できていないようである。	評価 B	C
次年度への提言	1　バレーボールの三段攻撃については、オーバーハンドパスの練習とセッターの位置取りやセッターへの返し方などを練習に取り入れ、知識と技術を指導して三段攻撃を出来るように指導し、出来る喜びを体験させたい。 2　健康課題を振り返りシートへ記入させ、それを実行できたかを記入する欄を設け毎時間ごとにチェックして、健康を意識させたい。		A

令和６年度

芸術科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　筆やペンの持ち方、整った文字の書き方をそれぞれ身に付ける。 2　日常生活に用いられる実用的な書を練習する。 3　表現を工夫し、書の創作と鑑賞を楽しむ。 ＜手立て＞ 1　基礎・基本を重視した反復練習から、正しい字の書き方を習得する。 2　キャリア教育の一環として、履歴書や礼状等の実用的な書を練習する。 3　表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる教材を作成し、鑑賞することで、自己有用感や自己肯定感を養う。		P
実施状況・達成状況	1　お手本となる動画を視聴し、繰り返し丁寧に書写することを通して、整った読みやすい文字の書き方を身に付けることができた。 2　履歴書や礼状を書くことの意義を知り、実際に書くことで、社会に出て役に立つスキルを身に付けることができた。 3　篆刻を通して、デザインを考える楽しさを知り、石を削る楽しさを実感することができた。級友の作品を鑑賞し、各自頑張ったことを認め合えるようになった。		D
成果と課題	1　書写をする際、丁寧な文字を書くことに、縛られている感覚をもつ生徒が一定数存在する。習慣の大切さを説き、納得させる指導が必要である。 2　礼状の書き方を身に付け、それを活用することで、マナーの大切さを実感する機会に恵まれた。 集中力を発揮して、丁寧に文字を書く能力は向上した。 3　篆刻はデザイン段階で作品の完成度が決まるため、デザインに力を入れるよう工夫した。	評価 A (A～Dで)	C
次年度への提言	1　硬筆、毛筆問わず、書写の大切さを知る機会を増やす。 じっくり作品をつくる集中力を高めていくことが重要。 2　礼状の書き方は継続して実施していく。 着実にソーシャルスキルは上がっている。 3　篆刻のデザインを考える際に、ある程度の難易度を求めてもよい。 白文、朱文でいうと、朱文に挑戦させるのも大切と考える。		A

令和６年度

英語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　基礎・基本の定着を図る。 2　身近なことを伝えるための英語表現を身に付けさせる。 3　コミュニケーション活動を工夫する。 ＜手立て＞ 1　集中して取り組ませるために、様々な方法で反復練習を行う。フラッシュカード代わりに電子黒板を使う。 2　「定時制英語会話」の練習を継続し、使える英語を増やす。 3　楽しく学べるよう、ペア・グループ・全体のコミュニケーション活動を効果的に実施する。		P
実施状況・達成状況	1　フラッシュカード代わりに電子黒板を使い、反復練習をして語彙力強化に努めた。また、書いて覚えるプリントの他に、日本語と英語をカードにした「concentration」や、カードを組み合わせて文を作るゲーム等、楽しく覚える工夫をした。 2　「定時制英語会話」を継続して実施し、あいづちを入れながら一定時間会話し続ける練習をした。 3　ペアではヒントカードを使った会話練習、全体ではカードに書かれた情報をもとに話す「なりきりスピーチ」等、新しい活動も取り入れながらコミュニケーション活動を充実させた。		D
成果と課題	1　英語が苦手な生徒が多いので、ゲーム感覚で覚えられる活動を取り入れた。生徒は大変熱心に取り組んでいた。基礎・基本を重視した授業展開をしているため、上位層が退屈しないよう発展問題も準備しているが、より効果的な発展問題を工夫する必要がある。 2　一定時間会話を続けられる生徒が増えており、成果を感じている。定期考査ごとに実施しているスピーキングテストの成績は、おおむね良好である。 3　コミュニケーション活動を楽しむ生徒が多いが、中には苦手とする生徒もおり、全体でどう指導していくか課題である。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・「定時制英語会話」を継続する。 ・来年度の４年生は２名の見込みであるため、少人数での効果的なコミュニケーション活動について研究する。		A

令和６年度

家庭科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　学んだ知識及び技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する。 2　授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。 ＜手立て＞ 1　主体性を引き出す教材を精選し、指導法を工夫する。 2　身近な題材を設定する。		P
実施状況・達成状況	1　実際の賃貸住宅を検索する活動等を取り入れ、現実的な教材を取り入れるよう工夫した。 調理実習を複数回行い、調理の基礎を学習させ、自分たちで作り方をアレンジさせる実習も実施した。 2　住生活分野や経済生活分野において、一人暮らしの生活を想定した学習活動を取り入れた。また、金融教育として資産運用の基礎を学習させた。		D
成果と課題	1　生徒たちは自身や身近な大人の生活経験を意欲的に発表し、数年後に自立して生活することをイメージしながら学習活動に取り組んでいた。 授業や調理実習を通して、他者とのコミュニケーションが徐々に取れるようになってきている。 2　授業中の発言は活発に行えるが、自身の考えやふり返りを記述することへの苦手意識は強くみられる。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・意見やふり返りの記述内容についての評価規準を明示し、記述の活動のねらいが伝わるような指導を心がける。		A

令和６年度

情報科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　情報技術の活用方法について理解を深める。 ２　問題解決のために情報と情報技術を適切に活用する力を養う。 ３　情報技術の利用者として情報社会に主体的に参画する態度を養う。 ＜手立て＞ １　パソコンやスマートフォンなどそれぞれの特性と、ネットワークについての理解を深める。 ２　アルゴリズム的思考を身につけるためプログラミングを学習する。 ３　情報モラルやセキュリティを学習し、情報社会へ関わる態度を身に付ける。		P
実施状況・達成状況	・教科書、県教委契約の教材、実習（タイプ、アプリケーションの活用）と、取り組むべき教材、内容は多岐にわたって存在している。生徒の実情を踏まえると、広く浅くといった内容が精一杯である。中でも基本的なキーボード操作が、求めるレベルまで達していないため、作業やレポート作成に時間がかかり、思うように進めることができていない。 ただし、無理に進めるとすべてが中途半端になるため、ここでは無理せず確実に修得できることから行うことが重要である。		D
成果と課題	・授業時間を１０分と３５分に分けて、キーボード操作の習得と、学習に取り組む時間に分割して授業を組み立てている。これを１年間集中して行うことができれば、求める技術へ達することができるため、今はあせらないで、継続していく。そのため少しの遅れが発生してしまうが、卒業までに履修する情報に関する関連科目を通して、確実に知識や技術の習得ができるようにする。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・本来、求める技術レベルへ達することを目標に、３年間または４年間のスパンで、かつ、情報科目だけでなく、商業、キャリアなどの教科と連携しながら、あせらないで、継続していき、生徒の技術や知識に関する目標達成を目指す。		A

令和６年度

商業科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	１　ビジネスに関する基礎的な知識と教養を定着させる。 ２　情報関連技術の活用など、幅広いコンピュータ操作を身に付けさせる。 ＜手立て＞ １　日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにする ２　オフィスソフトを活用した実習を行うとともに、タイピングソフトウェアの実習を通して基本的なキーボード操作技術を身に付けさせる。		P
実施状況・達成状況	・ビジネスに関わる知識や技術の中で、ビジネスマナーの内容はコミュニケーションの大切さを理解し、行動できる社会人を育成することを目指しており、ロールプレイなどを行い実際に活用できるような内容で実施した。 ・タイピング技術の習得は、３修制と４修制による実施時数の違いが、差になって表れているものの、３・４年次を経て挽回できる目処が立っている。		D
成果と課題	・ビジネスに関するＷＥＢページや動画等を活用し、実際に確認しながら授業を進めることができた。また、マナーやビジネスツールについては実習を行い、活動を通して知識や技術を身につけることができた。 ・一方でＴＰＯを理解し、状況に応じて行動できるかという面では、繰り返し実習したり、条件設定の中で実習したりするなどの応用的な時間を確保できなかった。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・実習やロールプレイなどは、継続して実施するが、クラスの人数に応じたアップデートも必要になると思われる。ＰＣの基本操作についても、他の科目と連携しながら、技術習得をめざし、基本だけでなく、よりハイレベルな技術の習得を目指す。		A

令和６年度

地域環境科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　地域の自然環境と人との関わりについて、基礎的な知識を習得させる。 2　郷土の魅力や文化、歴史の豊かさについて関心をもたせる。 3　考えをまとめ、自分の言葉で人に伝えられるようにする。 ＜手立て＞ 1　地域の具体的な事例を体系的にまとめ、テーマを設定し伝えるようにする。 2　自分の住む地域以外と比較させながら、タブレット等を用いて調べ学習をさせる。 3　相手に伝わるような表現方法やまとめ方を意識させる。		P
実施状況・達成状況	1　テーマを設定できるよう、地域の具体的な事例を体系的にまとめた。 2　タブレットを用いて調べ学習を行い、自分の住む地域について理解を深めた。 3　まとめの際に、分かりやすく伝えるポイントなどを意識させた。		D
成果と課題	1　地域の自然環境や人物、歴史について見識を深めることができた。 2　知らなかった郷土の魅力や文化に気づき、地域のよさを認識したり、愛着をもったりすることができた。 3　他の人に分かりやすく伝えようと工夫することで、まとめた内容に対する理解がより深まった。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・来年度から３年生のみの教科になるので、これまでの蓄積を踏まえ、内容を取捨選択しながら計画を立てたい。 ・また、社会的な分野を多く扱うことになるので、できるだけ自然科学の分野も取り入れたい。		A

令和６年度

キャリア教育

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1　職業や自分の将来、自己実現の道筋を考え、考えたことを表現できる力を育む。 2　自分の将来や未来の社会について真摯に向き合い、問題を解決しようとする態度を育てる。 3　社会生活で必要な一般常識（挨拶、マナー、金銭管理、生活管理等）を身に付けさせる。 ＜手立て＞ 1　自己理解を深めさせ、将来について具体的に考えさせる。 2　キャリアプランを作成させ、将来の社会に向き合う心を育む。 3　就職・進学試験に関する問題集を利用したり、面接やロールプレイを行ったり、実践的な取組を行う。		P
実施状況・達成状況	1　本格的な進路活動やインターンシップもあり、将来について具体的に考えさせることができた。 2　将来の目標に向かって計画を立て、社会に向かっていく心を育てることができた。 3　一般常識に関する問題集を利用したり、面接を行ったりして実践的な取り組みを行うことができた。		D
成果と課題	1　４年生は進路活動をしていたこともあり、自分の将来について具体的に考え、行動することができていた。２年生についても、インターンシップ後あたりから進路に関する意識が出てきている。 2　進路に関する目標や課題が少しずつ明確になるにつれて、意識や姿勢が変わってきた。 3　実際に就職試験で出題されるなど直接的な成果が見られるケースもあった。一般教養を越えた専門的内容になっていたり演習が多くなったりするケースがあった。	評価 B (A～Dで)	C
次年度への提言	・一般教養Ｂや一般教養Ｃは１年目だったので、教育内容の検討や教材の蓄積を心がけたい。 ・総合的な探究の時間やＬＨＲ、学校行事との関連も踏まえた学習内容や展開を検討したい。 ・担当者が５人いるので、授業内容や取り組みの統一感が必要だと感じた。また、演習中心になるケースが散見されたので、本時の目標を確認したり、振り返りをしたりするなど、めりはりを付けた展開を心がけたい。		A